

## 壬生小の特別支援教育2023～すべての子どもに、どのクラスでも～

壬生小の特別支援教育では、仲間とつながり合い、支え合う関係づくりを進め、安心感の中で、どの子にとっても「わかる」、「できる」学習を目指しています。

今、障がいを含むさまざまな特性の子どもたちが共に学び、一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の構築が求められています。本校では、通常の学級と学習相談学級それぞれで、あるいは双方の交流学習を活かして、特別支援教育や個の特性に応じた合理的配慮の充実に努めています。壬生小の特別支援教育の基本方針や取り組みの概要をお知らせします。

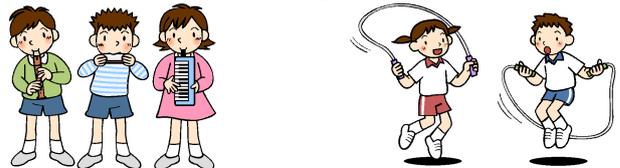
壬生小の子どもたちは、素直で、明るく、学習にも運動にも元気に取り組み、一人一人がその子なりのよさや長所をもっています。一方で、読むのが苦手、漢字を覚えるのが苦手、話すのが苦手、作文が苦手、計算が苦手、歌や楽器が苦手、絵をかくのが苦手、走るのが遅い、ボール運動が苦手など、多くの子どもたちが、学習面で何らかの苦手意識や困難をもっています。

さらに、人と上手にかかわれない、集団で規律を守って行動するのが苦手、集中が長く保たない、感情のコントロールがうまくできない、人の気持ちが読めない、判断や我慢が苦手で、やりたいこと、言いたいことは、すぐに言動に移してしまうなど、行動面が未熟で、うまくいかない子もいます。心の問題や情緒面の混乱を抱えている子、感覚過敏や人一倍繊細で敏感な子もいます。こうした困難は、学習はもちろん、登校すること、集団生活や人間関係づくりの障壁にもなります。

障がいの有無に関わらず、何らかの困難を抱えながらがんばっているすべての子どもたちに、よりよい援助を提供できるように、本校の職員は努めています。取り組みの主なものは以下の通りです。

- だれにでもやさしく、わかりやすいユニバーサルデザインの授業づくりを目指す。
- 読みや計算のスクリーニング検査による実態把握と、それにもとづく個に応じた補充学習、授業における配慮など、校内体制で基礎・基本の定着に努める。

- 的確な児童理解にもとづいて、援助方針を立て、関係する職員が協働し、必要に応じて外部機関とも連携してチームで援助する。
- 学習面の遅れや困難、適応や集中持続の問題、発達や認知特性の偏り、心の混乱など情緒面で困難がある児童については、複数指導体制による個別支援や、特性に応じた合理的配慮の充実に努める。さらに、学習相談学級において、個々の特性により対応した教育内容ときめ細かな支援を提供する。
- 異年齢集団活動や体験活動を取り入れ、人間関係づくりや社会性の育成を促す。道徳科や特別活動、日常的な指導で、規範意識や公共のマナーを高め、生活・行動面の成長を促す。
- 幼稚園・保育園、中学校との連携を強化して、子どもの特性や効果的な支援策など、情報・援助方針の引き継ぎに努める。



学校では、保護者やご家族の皆さんも、子どもを支え、育むための重要な援助者と考えています。問題状況や困難の改善、効果的な援助・教育のためには、学校と家庭の協力が不可欠です。お子さんの問題や気になること、保護者の方の困り事、子育ての悩み、援助方針や合理的配慮の希望など、何でもお気軽に各学級担任にご相談ください。事前に調整のうえ、関係職員やスクールカウンセラー等との面談を設定することも可能です。また、学校には、以下のような担当職員もおります。直接ご連絡をいただくことも可能です。

- 特別支援教育コーディネーター（発達の問題、学習・行動面の困難など）：渡邊倫子
- いじめ・不登校担当・教育相談コーディネーター（不登校・不適応、対人関係や問題行動、心の問題、子育ての悩みなどの相談、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー利用、外部の相談機関・医療機関等の利用や連携など）：畠山和人〈児童指導主任〉
- 不適切な指導担当：小倉裕美〈教頭〉

壬生小学校 ☎ 82-0049